

Ⅱ 活動プログラム

Ⅰ 野外活動

活 動 名		(Ⅰ) テント設営・撤収
活動のねらい		テント設営や撤収の基本的な技能を身に付けさせるとともに、助け合いの心や主体的に問題を解決しようとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		70 分 ・ 無料
対 象 ・ 人 数		小学5年生以上・17張×4人程度
場 所		キャンプサイト，多目的広場 など
準備品	研修団体	帽子，軍手，タオル，水筒，救急セット，虫除けスプレー など
	自然の家	テントセット，シュラフ，マット，シーツ，ハブ柵
活 動 内 容		1 集合，あいさつ 2 説明 (1) 道具等の準備 (2) 活動の流れ (3) 安全面 3 活動 (Ⅰ) 設営 ア テント倉庫からテント等を運ぶ。 イ 協力して設営する。 ※ テントを離れるときは，ファスナーを全て閉める。 ウ 寝具を入れる。 エ 後片付けをする。 (Ⅱ) 撤収 ア 寝具を畳み，テント倉庫に返す。 イ 協力して撤収する。 ※ 用具が全て揃っているか数確かめる。 ウ テント等をテント倉庫へ運ぶ。 エ 忘れ物・落とし物がいないか確かめる。 4 集合，あいさつ
留意事項	研修団体	○ 事前にテント班を編成しておく。 【テント一張り当たりの宿泊可能人数・・・小・中学生4人程度】 ○ テント収納袋は，建てたテントの中に置く。 ○ 「テント設営」を研修に設定する場合は，翌日の研修に「テント撤収」を1コマ設定する。



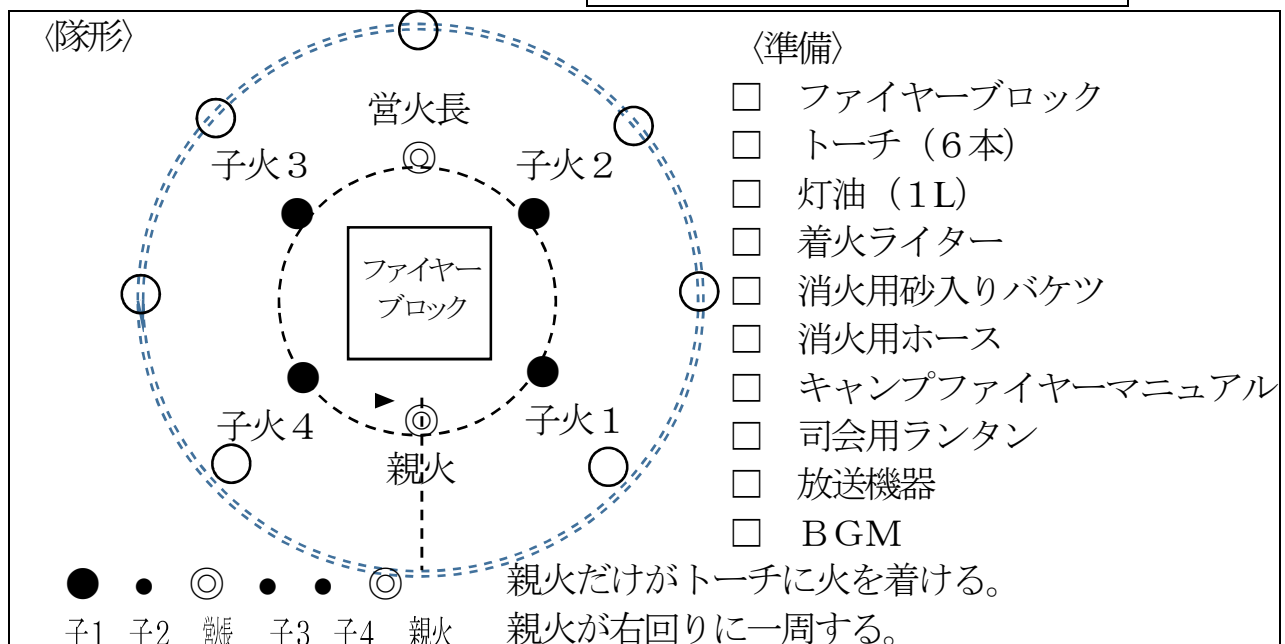
活 動 名		(2) 野外炊さん（カレー，豚汁等）
活動のねらい		自分の役割を果たしながら，安全に気を付けて野外炊さんに取り組む活動を通して，助け合いの心や主体的に問題を解決しようとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時間・費用		240 分・食費(食堂料金に準ずる。)，薪代(一人 10 円)
対象・人数		小学5年生以上・120 人以内
場 所		炊さん場，創作のやかた など
準備品	研修団体	軍手，救急セット，虫除けスプレー
	自然の家	羽釜(飯ごう)，鍋セット，食器，洗い物セット，薪，マッチ
活 動 内 容		1 集合，あいさつ 2 説明 (1) 道具，材料などの準備 (2) 活動の流れ (3) 安全面 3 活動 (1) 食材，炊さん用具，食器，薪を準備する。 (2) 羽釜または飯ごうを使ってご飯を炊く。 (3) おかず(カレー，豚汁等)を作る。 (4) 最初に作り終えた班が，食堂に飲み物，デザート等を取りに行く。 (5) 食事をする。 (6) 後片付けをする。(必ず自然の家職員の食器点検を受ける) 4 集合，あいさつ 
留意事項	研修団体	○ 事前に炊さん班を編成しておく。(12班以内，1班5～10人程度) ○ 事前に係（食器係，調理係，かまど係）を決め，活動内容を確認しておく。 ○ 後片付け後に，引率者が炊事場，排水口に残飯が残っていないか確認をする。 ○ 片付けの際は，引率者，自然の家職員の順に用具点検を受ける。 ○ 炊さん道具は，自然の家職員の点検後に炊さん倉庫へ収納する。

活 動 名		(3) キャンプファイヤー
活動のねらい		炎を囲んで交流する活動を通して、友情や交流を深めるとともに、これまでの自分を見つめる機会とし、他の人々に感謝しようとする心情を養う。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		60 分・薪代(一人 10 円)
対 象 ・ 人 数		小学5年生以上・120 人以内
場 所		キャンプファイヤー場
準備品	研修団体	交歓のつといででのスタンツ(出し物), 必要なCDや用具, 救急セット, 虫除けスプレー
	自然の家	ファイヤーブロック, トーチ(6本), 灯油, バケツ(消火用砂入れ) 進行マニュアル, 親火・子火カード, 放送機器, ランタン, ライター
活 動 内 容		【30分前】リハーサル：自然の家職員, 進行(1), 営火長(1), 親火(1), 子火(4) 1 集合, あいさつ 2 説明 (1) 安全面 (2) 準備 3 活動 (1) 迎え火の式を行う。 (2) 交歓のつといを行う。(30分程度) (3) 送り火の式を行う。 (4) 後片付けをする。 4 集合, あいさつ 
留意事項	研修団体	○ 事前に係(親火, 子火, 営火長, 進行)を決め, 台詞等の練習をしておく。また, スタンツ(出し物)を計画し, 打合せや練習等をしておく。 ※ P6～8を参考にしてください。 ○ 係(親火, 子火, 営火長, 進行)は開始 30 分前に集合し, 準備及びリハーサルを行う。

キャンプファイヤー 進行表

【1部 迎え火の式】

- みなさん、こんばんは。自然の家での研修も（○日目の・最後の）夜を迎えました。
これまでの活動を振り返り、研修で学んだことをこれからの生活に生かせるように、そして、
私たちの友情がさらに深まるように、ただいまよりキャンプファイヤーを行います。
- それでは、第1部「迎え火の式」です。 〈BGM1〉
- 営火を迎え入れます。〈親火、子火4、3、営火長、子火2、1の順で入場する。〉 〈入場後
BGM1 薙 fade-out〉
- 親火は、営火に捧げる言葉をお願いします。
親火：営火に捧げる言葉
- 親火は、営火長と子火へ火を分け与えてください。
親火・営火長・子火：分火の言葉・誓いの言葉
- 営火長は、点火を宣言してください。
営火長が「点火」と言う。 親火・営火長・子火：点火
- 営火長は、迎え火の言葉をお願いします。
営火長：迎え火の言葉
- みなさん、中央の炎をしばらく見つめましょう（少し間を置く。）※ 語りかけるようにゆっくり
話す。
営火長、親火、子火の皆さん、ありがとうございました。これで第1部「迎え火の式」を終わ
ります。営火の皆さんは退場しましょう。 親火・子火・営火長は退場する。



【2部 交歓の集い（レクリエーション）】 30分程度

【3部 送り火の式】（※ 全員起立する。）

1 楽しかったレクリエーションも、あっというまに終わりました。

それでは、第3部「送り火の式」を始めます。 〈BGM：2〉

2 親火は採火し、その火を営火長、子火の皆さんに分けてください。

親火：採火し、子火と営火長に分火する。〉

3 営火長は、送り火の言葉をお願いします。

営火長：送り火の言葉

4 みなさん、炎をじっと見つめてください。〈BGM3〉

これから皆さんが歩む人生は、楽しいことばかりではありません。つらいことや悲しいことも経験し、時にはくじけそうになることもあるでしょう。

でも、皆さんには、喜びや悲しみを分かち合える先生や友達がいます。お互いを信じ、助け合いながら、この暗闇を照らす炎のように、力を合わせて困難に立ち向かっていこうではありませんか。友達や先生がいれば、どんなに苦しいことでも、きっと乗り越えていけるはずです。

最後に、家族の顔を思い浮かべてください。皆さんが、こんなにも大きく成長し、何事もなく毎日を過ごしていけるのは、言葉では言い尽くせないほどの家族の協力や苦勞があるおかげです。

普段は照れくさくて言えないけど、「ありがとう」と感謝の言葉を、心の中でつぶやいてみてください。

それでは、今晚、ここに集った皆さんが、限りない未来に向かって力強く羽ばたいていくことを、そして、幸多き人生を歩んでいかれることを祈りながら、第3部「送り火の式」を閉じたいと思います。

5 営火長、親火、子火の皆さん、ありがとうございました。営火長、親火、子火の皆さんは退場してください。

6 皆さん、ありがとうございました。以上で、今夜の「キャンプファイヤー」を終わります。

キャンプファイヤーの言葉

【営火長：迎え火の言葉】

今夜、私たちは、ここ奄美少年自然の家で、聖なる火を囲みます。日々の暮らしを離れ、共に生活する中で、友情を深め、感謝の気持ちを育むことができました。この火が、かけがえのない思い出となり、いつまでも私たちの胸に灯り続けることを祈りながら、迎え火の言葉とします。

【営火長：送り火の言葉】

これまで燃え続けていた 炎も、今はもう、こんなに小さくなってしまいました。

しかし、ともに笑い、ともに楽しんだ時間は、奄美少年自然の家で過ごした楽しい思い出となって、いつまでも皆さんの心に残ることと思います。キャンプファイヤーの 炎は消えても、今日育んだ友情の 炎は、いつまでも、私たちの心の中で消えることはないでしょう。この素晴らしい思い出をみなさんの心に刻むために、しばらくの間、じっくりと炎を見つめてください。

最後に、私たちを励まし、見守ってくれた奄美の自然に感謝して、送り火の言葉とします。

【親火：営火に捧げる言葉】

今日一日、私たちの活動を見守り、明るく照らしてくれた太陽も、はるか遠く水平線に沈み、自然の家も静かな夜を迎えようとしています。

遠い昔、暗闇を照らす 炎は、人々にとって心のより所であり、疲れを癒やし、体を温めてくれる希望の光でした。今夜、私たちも、キャンプファイヤーの火を囲みながら、楽しく、そしておごそかな時間を過ごします。ここに集まった皆さんが、これから、中央のファイヤーブロックに灯される 炎のように、学校や地域で輝き続けてくれることを祈りながら、営火に捧げる言葉とします。

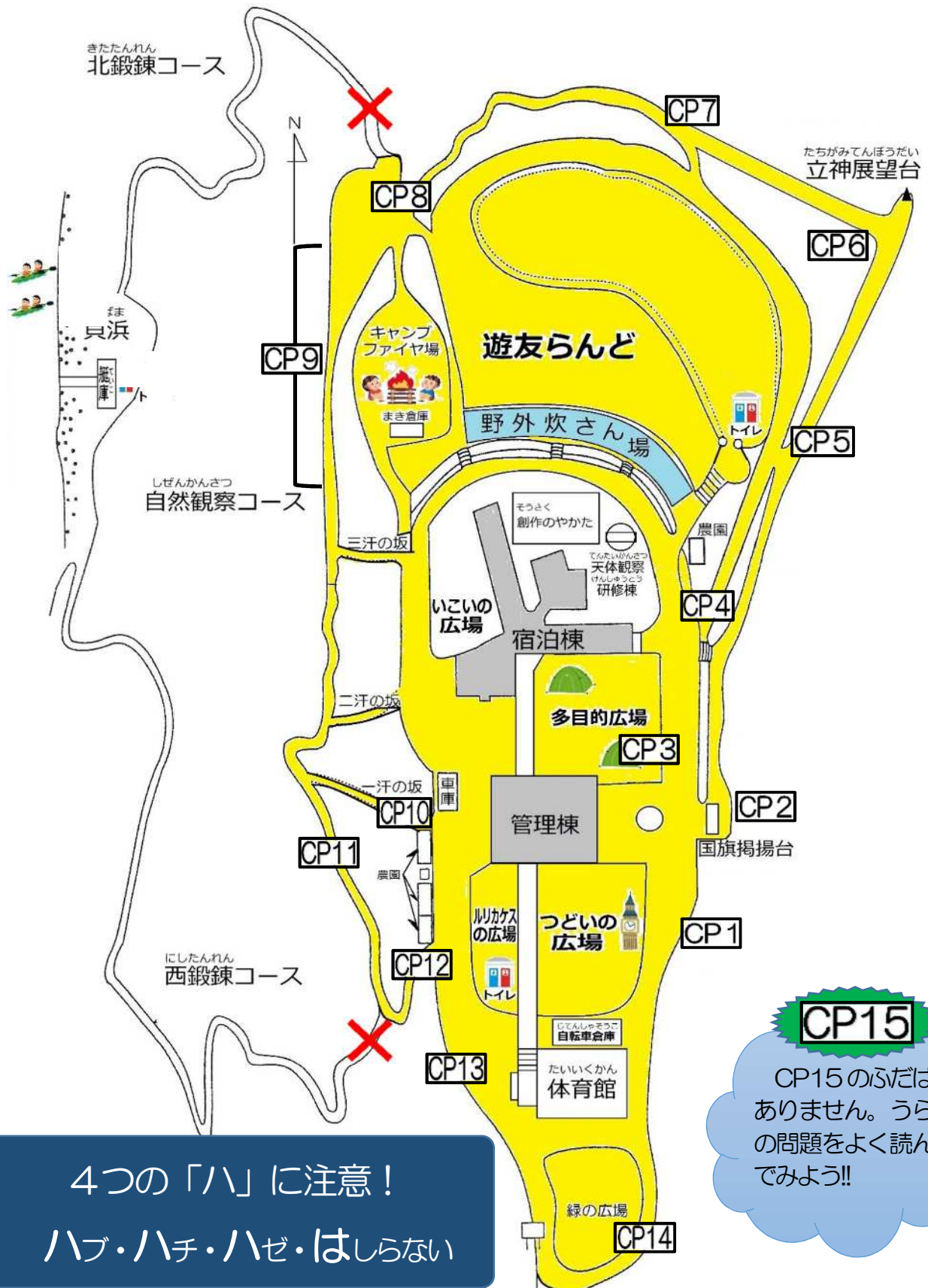
分火の言葉 ※ キャンプファイヤー、灯のつどい共通

親火	子火
こび 【子火1へ】	こび 【子火1】
こうじょう 向上のために	じぶん かのうせい しんじ 私たちは、自分の可能性を信じ、心と体をきたえ、努力を惜しまない人になります。
こび 【子火2へ】	こび 【子火2】
ゆうじょう 友情のために	たが しん とも はげ あ ゆうじょう ふか 私たちは、お互いを信じ、共に励まし合い、友情を深める人になります。
こび 【子火3へ】	こび 【子火3】
しゃかい 社会のために	すす ちい き やくだ 私たちは、進んで学び、学校や地域、社会のために役立つ人になります。
こび 【子火4へ】	び 【子火4】
きぼう 希望のために	きぼう もくひょう みらい お 私たちは、希望と目標をもち、未来に向かって、夢の橋をかける人になります。

活 動 名		(4) 自然散策
活動のねらい		植物や昆虫，野鳥等を観察しながら，自然のよさに気付き，それらを大切にしようとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		70 分～140 分・無料
対 象 ・ 人 数		幼児以上・120 人以内
場 所		自然観察道 など
準備品	研修団体	帽子，軍手，水筒，タオル，救急セット，殺虫剤，虫除けスプレー
	自然の家	吸引器セット，説明用パネル，殺虫剤，虫除けスプレー，トランシーバー
活 動 内 容		1 集合，あいさつ 2 説明 (1) 活動の流れ(散策するコース等) (2) 安全面 3 活動 (1) 散策の視点，注意事項を聞く。 (2) 森林浴をしながら，植物や昆虫，野鳥等を観察する。 (3) 散策が終わったら広場に集合し，発見したことや気付いたこと等について発表し合う。 (4) 後片付けをする。 4 集合，あいさつ 
留意事項	研修団体	○ 自然の家職員と団体引率者が打合せを行い，天候に応じた集合場所やコースを決める。

活 動 名		(5) クイズウォークラリー
活動のねらい		クイズウォークラリーを通して、仲間と協力する楽しさや自然の素晴らしさを感じ、主体的に問題解決に取り組もうとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		70 分 ・ 無料
対 象 ・ 人 数		小学生以上・120 人以内
場 所		自然の家周辺、自然観察道
準備品	研修団体	帽子、軍手、タオル、水筒、救急セット、殺虫剤、虫除けスプレー
	自然の家	ゼッケン、地図、紙ばさみ、鉛筆、殺虫剤、虫除けスプレー、吸引器セット、説明用パネル、トランシーバー
活 動 内 容		1 集合、あいさつ 2 説明 (1) 道具、材料の配布 (2) 活動の流れ (3) 安全面 3 活動 (1) 出発前の準備をする。 (2) 班ごとに出発する。 (3) 到着後、採点をしてもらう。 (4) 成績を聞き、活動を振り返る。 (5) 後片付けをする。 4 集合、あいさつ  
留意事項	研修団体	○ 事前に班編成を行っておく。(一班5～8人程度) ○ 当日の天候を考慮しながら、自然の家職員と団体引率者が打合せをして実施の判断をする。 ○ 評価（振り返り）の仕方について、事前に確認する。

クイズウォークラリー マップ (案)



4つの「ハ」に注意！
ハブ・ハチ・ハゼ・はしらない

CP15のふだは
ありません。うら
の問題をよく読ん
でみよう!!

ちょうせん
チームで力を合わせて挑 戦 しよう！

活 動 名		(6) 赤崎ハイキング
活動のねらい		自然の家から赤崎公園まで歩き、自然散策を楽しむことで、自然を大切にしようとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		140 分・無料
対 象 ・ 人 数		幼児以上・120 人以内
場 所		自然の家～赤崎公園
準備品	研修団体	帽子、水筒、タオル、救急セット、虫除けスプレー
	自然の家	吸引器セット、救急セット、虫除けスプレー、トランシーバー
活 動 内 容		1 集合、あいさつ 2 説明 (1) 活動の流れ (2) 安全面 3 活動 (1) 交通ルールを遵守しながら赤崎公園までハイキングをする。 ※ シャリンバイやソテツ等植物の様子を観察しながら歩く。 ※ 戦没者慰霊塔の話を聞きながら歩く。 (2) 駐車場奥の階段から遊具施設のある広場へ下り、集合場所と時間を確認して、団体引率者の指示に従って行動する。 (3) 集合時刻になったら、人員を確認して、交通安全に気を付けながら帰路につく。 4 集合、あいさつ 
留意事項	研修団体	○ 当日の天候等を考慮しながら自然の家職員と団体引率者が打合せをして、実施の判断をする。

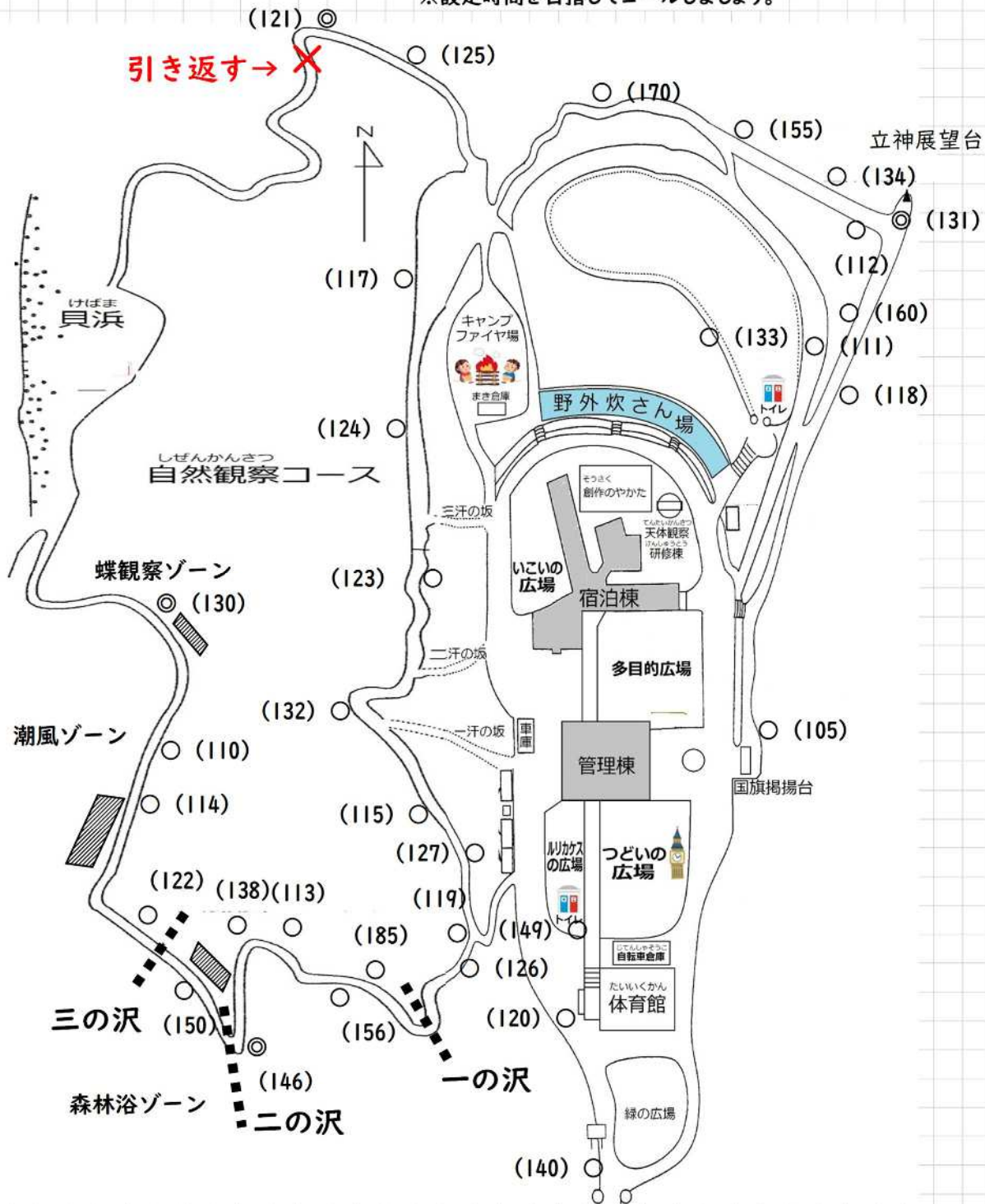
活 動 名		(7) オリエンテーリング
活動のねらい		地図を使いながら、仲間と協力してコースの中のポイントを探す活動を通して、自然に親しむとともに、助け合いの心や主体的に問題解決に取り組もうとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		140 分・無料
対 象 ・ 人 数		小学生以上・120 人以内
場 所		自然の家周辺、自然観察道、西鍛錬道 など
準備品	研修団体	帽子、軍手、水筒、タオル、救急セット、殺虫剤、虫除けスプレー
	自然の家	ゼッケン、地図、紙ばさみ、鉛筆、吸引器セット、殺虫剤、虫除けスプレー、説明用パネル、トランシーバー
活 動 内 容		1 集合、あいさつ 2 説明 (1) 道具の配布 (2) 活動の流れ (3) 安全面 3 活動 (1) 出発前の準備をする。 (出発時刻と目標帰着時刻の確認) (2) 班ごとに出発する。 (3) 到着後、採点をしてもらう。 (4) 成績を聞き、活動を振り返る。 (5) 後片付けをする。 4 集合、あいさつ  
留意事項	研修団体	○ 事前に班編成を行っておく。(一班5人～8人程度) ○ 当日の天候を考慮しながら、自然の家職員と団体引率者が打合せをして、実施の判断をする。 ○ 振り返りの仕方について、事前に確認しておく。

オリエンテーリング マップ

【 】コース

グループ名		スタート時刻	時 分	所用時間	設定時間
人 数		ゴール 時刻	時 分		

※設定時間を目指してゴールしましょう。

[illegible]

活 動 名		(8) 自転車モトクロス
活動のねらい		マウンテンバイクの基本的な操作法を習得し、モトクロスコース(所内)を走行する活動を通して、安全に留意しながら主体的に活動に取り組もうとする態度を育てる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		70 分 ・ 無料
対 象 ・ 人 数		小学5年生以上・20人以内
場 所		いこいの広場, 所内周辺(周回コース)
準備品	研修団体	帽子, タオル, 水筒, 救急セット, 虫除けスプレー
	自然の家	マウンテンバイク, ヘルメット, 肘・膝あて, 空気入れ
活 動 内 容		1 集合, あいさつ 2 説明 (1) 自転車の準備・点検等 (2) ヘルメット, 肘・膝あての装着 (3) 操作法及び安全面 3 活動 (1) 自分の体に合ったマウンテンバイクを選び, サドル, 空気圧(自然の家職員と確認)・ブレーキ等を点検, 確認し, 適宜各自で調整する。 (2) ヘルメットをかぶり, 肘・膝あてを着ける。 (3) 自然の家周回コースを走行してマウンテンバイクに慣れる。 (4) 設置された障害物コースに挑戦する。 (5) 後片付けをする。 4 集合, あいさつ 
留意事項	研修団体	○ 利用人数が多い場合は, 交代しながら活動する。 ○ 設置した障害物コースには, 補助者を必ず配置する。

活 動 名		(9) 環境ボランティア
活動のねらい		環境整備を中心としたボランティア活動を通して、自然を大切にしようとする心情を育んだり、持続可能な社会づくりについて考えたりする機会とする。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		70 分～140 分・無料
対 象 ・ 人 数		小学5年生以上・120 人以内
場 所		海洋・海浜研修場，自然観察道，各広場 など
準備品	研修団体	帽子，軍手，タオル，水筒，救急セット，虫除けスプレー，ゴミ袋等
	自然の家	掃除用具，ゴミ袋等(内容による)
活 動 内 容		1 集合，あいさつ 2 説明 (1) 手順や用具の使い方等 (2) 活動の範囲等 3 道具等の配布 4 活動 (1) 活動を行う。 【例】ビーチクリーニング，自然観察道や各広場の落ち葉拾い，農園の除草 など (2) 活動を通して気付いたことをまとめ，発表し合う。 ア 落ち葉や雑草等について イ 拾い集めたゴミ等について (3) ゴミの分別，後片付けをする。 5 集合，あいさつ 
留意事項	研修団体	○ 事前及び事後指導を自然の家職員と団体引率者で十分に打ち合わせる。 ○ けがをしないように次の点について特に注意する。 ・ 用具（ほうき・てみ・熊手・火ばさみ など）を正しく扱う。 ・ 素手・素足で活動をしない。

活 動 名		(10) ナイトウォーク&ゲーム
活動のねらい		夜の動植物の声や音を聞きながら、奄美の自然の素晴らしさに気付き、大切にしようとする態度を育てる。 ゲームを通して、絵を描くことの面白さや光があることの大切さを感じる。
活動の主な時期		通年
時 間 ・ 費 用		60 分・10 円
対 象 ・ 人 数		幼児以上・120 人以内
場 所		自然の家周辺（雨天時：研修室・体育館）
準備品	研修団体	虫よけスプレー，懐中電灯（必要に応じて）
	自然の家	クレヨン，バインダー，画用紙，ランタン
活 動 内 容		1 集合，あいさつ 2 説明 (1) 目的 (2) 活動の流れ (3) 安全面 3 道具等の配布 4 活動 (1) コースを歩きながら観察をする。 ※ 季節・天候によって，夕日や星を観察する。 ※ 荒天時は，室内で話を聞く。 (2) みどりの広場前で「ゲーム」の説明を聞き,絵を描く。 【ゲームの例】 ・歩いている時に聞こえた音をもとに，みどりの広場で絵を描く。 ・話をもとに場面を想像して,みどりの広場で絵を描く。 (3) 玄関前で描いた作品を鑑賞する。 5 集合，あいさつ
留意事項	研修団体	○ 事前に班編成を行っておく。(一班 40 人程度) ○ 順路に従って一方通行で歩く。 ○ 夜の活動なので，安全指導の徹底を図る。 ○ 体育館や一般駐車場付近は，車の往来があり危険なため，安全面に十分留意する。 ○ 樹木や植え込みなどの近くを通る際は，虫刺されやハブに気を付ける。

